

# J R 総連通信

2005年5月18日

<http://www.jr-souren.com/>

762

全日本鉄道労働組合総連合会

J R 西日本の職場を創り変えよう！

Vol.2

## 労使協調では変革できない！

「労使安全会議」や「専門委員会」へ収束？ これでは変わらない！

J R 西労を除く三組合により「労使安全会議」や「専門委員会」が開催され、会社側と御用組合などによる非公開の「協議」が行われています。そしてJ R 連合などは、あたかも労使で問題解決が図れるかのような幻想を大書きにしています。しかも丁寧に「残念ながら J R 西労は欠席した」と宣伝し、自らの運動を正当化させようともしています。しかし、J R 連合や西労組はこれまで何をしてきたのでしょうか。西労組組合員に課せられた「日勤」を問題にしてきたのでしょうか。日勤を命ずる管理者が組合役員であるが故、日勤での草むしりや「レポート」や「反省文」・「決意文」に目をつぶっていたのでしょうか。

一方2回目の労使安全会議で、垣内社長は「社内のいろいろな問題を洗い出し、新しい企業風土を作るため、労使一体となれるように」と三労組に協力を要請し、森委員長はこれに応じました。しかし、これは大変危険な申し入れです。労使は常に対等な立場で、会社施策のチェック機能を果たすべきです。しかし、「一体となって」では、会社チェック機能も果たせません。これまでも行ってきた労使協調の歩みが、チェックの甘さを生み、物言えぬ職場をつくってきたことを真摯に受け止めるべきではないでしょうか。

### J R 西労に「会社倒産運動だ」と批判してきたJ R 連合・西労組

J R 西労は結成以来、安全にこだわり、トンネルの崩落問題や「のぞみ号」の安全運行、信楽事故での問題追及や会社の謝罪要請などをおこなってきました。もちろんダイヤの問題や勤務の問題、さらに「日勤教育」について問題化、会社への申し入れはもちろん、解決のために取組んできました。しかし、J R 西労からの安全を求める問題提起などに対し、これまでずっと「会社倒産運動だ」と批判してきたのがJ R 連合・西労組なのです。安全への指摘をそのように履き違えて批判をすることは、安全を求めることにつながるのでしょうか。

### 批判に値しないJ R 連合の言い訳

J R 西労は安全を求めて運動をし続けたが故、マスコミはJ R 西労の運動に注目し、ニュースや記事に取り上げられてきました。西労組やJ R 連合などは今まで「日勤教育」を問題にしなかったばかりか、「ボーリングや宴会への参加を漏らしたのは誰だ？」と自らの組織内で犯人探すら行ったり、事故車両から救出活動を行わず出勤するよう命じた西労組組合員である係長を断罪する姿勢を見せています。これが労働組合と言えるのでしょうか。

今こそ目を覚まそうではありませんか。何が正しくて何が間違っているのか。会社の体質を変えるのは、職場で働く者以外にはありえないのです。署名捺印の強制や“緘口令”を出す会社の体質、会社に癒着する労働組合こそ問題であり、これを変えようではありませんか。今こそ、J R 西労へ、J R 総連への結集を呼びかけます。